

幼稚園の運動会の意味



平井信義

「あなたの幼稚園では、どのような意義と目的をもち、運動会を実施しているのでしょうか？」と質問した時、どのような回答が用意されているだろうか？ 幼稚園という保育（または教育）の場において実施される運動会である限り、その意義と目的が明確になっている必要がある。その点が明確になっていないと単にお祭り騒ぎになってしまったり、あるいは毎年毎年の惰性として運動会を実施しているということになりかねない。

意義や目的のはっきりしていない運動会では、子どもに対して過重な負担をかけることになったり、保育者にも心身の負担がかかりすぎるものになったりする。あるいは、両親からの要求のままだに、子どもをおき去りにして、両親と保育者のみで楽しんでいる運動会になってしまふ可能性もある。また、施設や設備が不十分な中で、果たして運動会を実施する意義があるかどうか、批

判の対象となるし、運営の方法もまた問題になることもある。

そこで、まず、運動会の本来の意義・目的がどこにあるかを保育者自身が考えてみなければならぬし、そのための話し合いも必要となる。

一、運動会の意義と目的

運動会の意義を考えるに当たって、参考までに、これまで言われてきた幾つかの項目を挙げてみよう。これらは主に、小学校教育におけるものである。

その第一の意義は、子どもに対して、健康や運動への関心を高めることにある。第二の意義は、運動会を通じて、集団の規律や自律や協同の態度を養うことにある。第三の意義は、子どもをその運営に参加させることによって、自主性・計画性・創造性を伸

ばし、かつ、協力・責任の態度を養うことにある。以上の三つが中心となる。

そして、これらは単に運動会の時だけに表現されるばかりではなく、むしろ、日常の指導が重要であり、日常の教育の成果が運動会ではっきりと現われてくることが期待されている。したがって、運動会を頂点として、そこに至る教育の実践の効果が期待されているのである。その効果は、一つは運動の演技に現われ、一つには全般的な運営に現われることになる。

以上の目的を幼稚園においてもかかげるならば、運動会及びそれに至る過程において、子どもたちに、健康や運動への関心が高まったかが、その効果の判定の際に、先ず問題にされなければならぬであろうし、集団の規律や、自律・協同の態度が養われたかどうかも、論議されることになるであろう。

二、運動会の保育効果の測定

運動会の保育効果を測定するに当たって、いったいどのような尺度を用いるべきであろうか。天候がよく、保育者自身、あるいは両親たちと共に楽しい時間を過ごしてしまうと「今日の運動会はよかったわね」ということで終わり、子ども自身の問題は忘れられてしまうことにもなりかねない。本当に、子どもが健康や運動への関心を高めたか、それを通じて心身の発達が促進されたか

を、反省する機会がなく、ホッとした気分になることがある。つまり、反省さえも行なわれずに終わってしまうことになる。

そのような保育効果を考えるよりも、楽しい一日で終われば、それが保育効果であるとみてよい——という考え方があろう。確かに、一人一人の子どもが楽しく運動会に参加することは、大切な条件となる。終戦後の数年間は、小学校においてもこの点に重点をおいて、運動会を考えていたことがあった。すなわち、レクリエーションとしての意義である。

しかし、レクリエーションは余暇利用としての活動、余暇の善用を意味する。運動会は決して余暇利用のためではない。少なくとも園の大切な行事であり、保育(または教育)活動の場である。したがって、教育的意義を重要視する立場から言えば、レクリエーションに積極的な意義を認めることはできない。しかし、楽しい運動会の一日は、運動に対する子どもへの関心を高めるには大いに役立つと考えることができるし、間接的に健康を保証する一日であることになる。

幼児においては、健康や運動への関心を高めるといっても、その積極的な理解は未熟であり、それらの営みは分化して行なわれてはいない。したがって、楽しい運動会であったという子どもの印象は、子どもの心理的発達段階からみて、子どもに運動への関心を高める動因となる。その楽しさは、両親の参加を得て、倍加

することがある。日頃見慣れていない両親の運動ぶりが展開されることは、子どもにとって珍しくもあり、驚きでもある。両親が競争に打ち興じている姿は、子どもにも運動の楽しさを教え、関心を高めるのに大いに役立っていると考えてよい。その証拠には、運動会のあとに「運動会ごっこ」がさかんになることによってもわかる。あるいは、絵画にもそれが表現されることが少なくない。保育効果は、このような爾後の子どもの活動から判断されるものである。

また、集団の規律や、自律・協同の態度が養われたか否かを検討する必要があるが、幼児の場合、それが特に積極的でなくともよい。すなわち、運動会には全体として順序があり、自分の名前が呼ばれて自分が出る番があることがわかればよく、自分が出る番でない時には、他の子どもが活動しているのをじっと眺めていることができる、それでもって集団の規律を学習したことになる。また、友だちといっしょになってする遊戯は、十分に協同の態度を養っているわけである。

しかし、これらの具体的な保育目標は、当然、五歳児と三歳児とは異なる。五歳児では、既に規律や協同を学習し、一定の順序に積極的に参加できるが、三歳児では単に保育者の指導に従っているに過ぎない。もし競争（例えば、ヨーイ・ドンで走るもの）をさせてみるとすれば、全くその意志を発動しない子ども

が多いことに気付くであろう。したがって、三歳児には、競技は意味のないことがわかる。それよりも、一定のルールに従って集団で実現できるダンスなどが、教育的意義をもっていることがわかる。年齢を考慮してのプログラムが必要となることは、言うまでもない。また、年長児の競技を見ていること自体が、三歳児の学習としての意味を持つ。

しかし、四〜五歳になれば、競技に興味を示す子どもの数が、次第に増加する。そして、その優劣を問題にする子どもたちがいる。その子どもたちには兄弟がいたり、あるいは父親の運動会に参加するなどによって、競技を学習しているのである。しかし、多くの子どもは、初めて競技というものを経験するわけであり、そのルールもはつきり理解していないことがある。しかも、競技をさせることによって、それまでの保育の中で積み重ねてきた体力を発揮させるといふ意味は少ない。したがって、参加ということに意味がある。その賞も「参加賞」にとどめておくべきであろう。すなわち、各年齢の子どもの身体発育や運動機能には個人差があり、それを考えれば、競技に固執することはできないし、心理的発達にも年齢による差と個人差が認められるから、競技そのものに意味をもたせることはできない。したがって、運動会の種目の決定には、日常の運動（体育あそびなど）を考慮して、無理のないものにする必要がある。

運動会の目的のもう一つは、運営に対する参加ということであり、それを通じて自主性・計画性・創造性を養うことがある。しかし、幼児では、運動会に参加することそれ自体に意義があり、その運営に積極的に参加する能力は乏しい。したがって、保育者の準備していることを観察することが、教育のねらいとなる。しかし、五歳児になれば、準備に参加させる面がでてくる。それは、運動会の種目にもよるが、玉入れの玉のよい悪いを調べたり、用具に触れさせることをも加味して、準備活動に参加させることを考えたい。

なお、幼稚園では、両親の参加に意義を見出すことができる。父親や母親が走ったり玉をころがしたりする姿を見ることは、子どもたちにとっても大きな喜びである。競技の持つ意義を身近に感じとることもなるであろうが、両親の参加それ自体を、子どもは喜ぶ。同じ意味で、先生の参加も、子どもにとっての喜びとなる。

さらには、子どもも先生も両親もそろって参加できる種目が考えられてよい。その演技の技術がたなくても、協力して楽しい雰囲気があるに生まれてくるのが、運動会の大きな効果といえよう。小学校での運動会の目的が、日常の教育や指導の効果を発揮する場として設定されているのに対して、幼稚園の年間のカリキュラムから言えば、一つのアクセントとなるものであり、子ど

もと先生と両親との協力の実績がそこに現われるものと言ってもよい。父親の参加は、日常の生活で触れることのできない子どもの活動を見て、幼稚園に対して積極的な関心を持つ契機ともなる。しかし、両親の積極的な参加は、とかくお祭り騒ぎを要求しやすいので、あくまでも子どもを中心とした運動会であるよう、その節度を守る必要がある。

幼稚園の運動会の意義が、参加と協力という点にあるとすれば、それが十分に実現されるよう、二学期の初め頃から、運動会を旨ざしてさまざまな活動が展開されるであろう。両親への招待状を作ったり（図画・工作）、これまで見てきた運動会のお話をさせたり（言語）、全領域にわたって運動会を考えることができる。音楽・リズムが、運動会の種目と関係することは言うまでもない。運動会のあとも、あそびを中心として各領域の展開が期待される。また、両親も参加することを考えるならば、先生と両親との会合も必要となり、運動会を旨ざしての準備をいかにするかが議せられるであろう。

晴れわたった秋空の下で、子どもも先生も両親も参加し、協力してからだを活動させる中に、調和と楽しい雰囲気がかもし出されるそのことが、幼稚園の運動会の大きな教育的意義であるし、その日を頂点として、子どもにはさまざまな保育内容の展開が期待されるし、両親もそれに参加しているわけである。